

# 『看護教育』 61 巻 3 号 訂正とお詫び

このたびは 『看護教育』 61 巻 3 号 をご購入いただきまして誠にありがとうございます。  
 本号特集記事 209 頁におきまして、以下の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

『看護教育』 編集室  
 2020 年 3 月 2 日作成

頁	訂正内容
209	<p>左右段頭の各 1 行 (2 行) において本文の脱落がございました。                  訂正後の正しい内容は下記の通りです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>学習目的: マーガレット・S・マラーの発達論を通して、心の形成過程を理解し、精神看護に反映できるエビデンスを考える                      精神看護学方法論 (資料) 石末</p> <p>学習目標: 1. 心の発達のポイントが述べられる                      2. 心の発達のための関わりポイントが述べられる</p> <p>マーガレット・S・マラー、ウィーンで小児科学と精神分析学を修めた。幼児の精神療の研究から、次第に正常界の精神発達に目をむけるようになり、母子の実験観察にもとづいて、分離-個体化理論を提示した。</p> <p>用語の定義: 自我境界=自我と外的現実との境界のこと。身体の場合は、それが皮膚である。                      比喩=物事の説明に、これと類似したものを借りて表現すること。例え。                      表象=観念=知覚したイメージを配理に保ち、再び心のうちに現れた作用。イメージそのものを含めて呼ぶこともある。</p> <p>図2. 統合失調症の自我境界</p> <p>図1. フロイトの精神分析モデル略図</p> <p>図3. 分離-個体化過程略図 (自我境界を明確にしていく過程)</p> <p>胎児期(0-6ヶ月)                      胎児の状態で、母の心臓の音に反応し、母の胸を握りしめる。母の顔を手や目で観察する。</p> <p>正常自閉期(2-5ヶ月)                      自覚めた状態では、見えたり聞いたりした自分の欲求(空腹・睡意)から脱した状態。花柄の世帯から得られる満足だが、自分で満たしているのが区別できない。母と融合した状態。自分と母が一つの全能的な人間として機能する。共生。人間関係の根本的土壌を作る。接触知覚的な感覚受容が発達する。(分離不安)</p> <p>分離期(6-8ヶ月)                      自覚めた状態では、共や言など外観に持続的に注意を集中。母の顔を手や目で観察する。母を引っ張り上げたり上体をそらす。認知機能・記憶の発達から母を特定の人間として認知。感覚-知覚を愛感として体験。自我という種ができる。母を他人と区別する。(人見知り不安) 離乳食の開始(分離不安)</p> <p>移行期(9-18ヶ月)                      母から身体的に離れようとする時期。移動運動能力増大。心の中に母のイメージがで始める。</p> <p>再統合期(19-24ヶ月)                      再統合しようとする。一人遊びができる。自分の達成したことと、並と時に比較し確認する。(感傷付け、自信をつける)</p> <p>自立自由移動の獲得(24-36ヶ月)                      遊んでいる時、遊んでいる時など、部分部分で遊んでいた母子一人間の本質として認知的・情緒的に、持続的に、統合して経験し、それを精神内省に置き換える。対象関係性が達成する。</p> <p>図4. この状態での関わりが必要なことは何か?</p> <p>図5. この状態での関わりが必要なことは何か?</p> <p>図6. この状態での関わりが必要なことは何か?</p> <p>図7. この状態での関わりが必要なことは何か?</p> <p>まとめ                      A.                      B.                      C.</p> </div> <p>【図】精神看護学の授業をもとにしたワークシート</p> <p>認のために、計画にない板書をする事も多くなつた。反転型授業や、ワークシートおよびシンクペア</p> <p>支援がテーマである。そして、私のモットーは、目に見えないからといって、いきあたりばったりの看護は</p>